

会 議 録		令和 4 年12月15日作成	令和 8 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府山科警察署協議会（令和 4 年度第 3 回）		
開催日	令和 4 年12月 6 日（火曜日）		
時 間	午後 4 時30分から午後 5 時45分までの間（75分）		
場 所	京都府山科警察署 署長室		
出席者	温井会長、小林副会長、古川副会長、谷口(良)委員、那谷委員、西村委員 西川委員、川中委員 浦野委員、谷口(雅)委員、一原委員、山下委員 角田委員 計13人		
	署長、警務課長、地域課長、刑事課長、生活安全課長、広聴・相談係長 計 6 人		
諮 問 事 項	特殊詐欺の現状と対策について		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 警務課長 2 署長挨拶 3 協議 司会 会長 諮問事項説明 特殊詐欺の現状と対策について～生活安全課長 【委員】 被害に遭うのは高齢女性が多いと聞き、デイセンターや介護施設など、企業等と連携して、何かできることがあるのではないかと思う。 【警察】 包括支援センターが、山科区と醍醐地域にあり、年 3 回ほど会議が開催され、その会議には警察も参加して特殊詐欺について啓発を行っている。他に何かタイアップができればと考えている。 【委員】 行政のみの取組では限界があるため、民間の力を使えばよいと思う。企業やデイセンター等の職員の方に、何か広報活動を行ってもらえるような協力が得られたらよいと思う。 例えば、コンビニエンスストアで電子マネーによる支払い時には、高額であれば「声を掛けてください」と画面表示されるようにするとか、利用状況を確認できるようなシステムになっていれば、店員の誰が対応しても漏れがなくなるのではないかと思う。		

会 議
内 容

警察だけの取組ではなく、高齢者に関わる施設にしてほしいことを依頼するなど、何か具体的に働き掛ければよいのではないかと。

病院に通院されてる方も多いため、病院の協力を得て、高齢者の集まる場所にピンポイントで啓発ができればいいのではないかと思う。

【警察】 そのとおりだと思う。

高齢者宅に個別訪問している民生児童委員さんや、老人会の方とも連携している。特に、山科区と民生児童委員と当署は、平成30年に協定を結び、毎月1回、山科区役所で開催される山科区民生児童委員会の会議には、毎回警察も参加し、特殊詐欺の発生状況等について情報交換をしている。その際、防犯対策についても説明を行い、個別訪問した際におけるチラシの配布や、固定電話対策としての録音機の貸出しについても周知を依頼している。

また、本日は山科区役所まちづくり推進課長に参加してもらっているが、区役所では、予算を取って対策も考えており、行政との連携は行っているが、民間企業等との連携は十分ではない。

【委員】 行政から民間に対策を依頼すれば、活動が一気に広がるのではないかと思う。

【警察】 民間への働き掛けが、当署だけで行えるかどうかは、検討・調整しなければならない点もあるが、民間の力は非常に有効であるため、参考とさせてもらう。

【委員】 安朱学区では、民生委員さん等が高齢者の方に対し、いろいろな声掛けを行っている。ただ、高齢者自身への対策も大事だが、家族から高齢者に対して声を掛けてもらうこともとても大事だと思う。お孫さんや息子さんの世代の人に、学校で、特殊詐欺被害が増加していることを教え、「おじいちゃんやおばあちゃんによく伝えておいてね。」という感じで伝えるなど、高齢者のご家族に対する教育をするのがよいのではないかと思う。

【委員】 私たちが子どもの頃は、学校から、おじいちゃんやおばあちゃんに戦争の話や、どのような遊びをしていたかなど、話を聞いてくるようにと言われたことがあったが、最近では、そういうことがないようだ。

【委員】 小学校からそういうことが授業で取り入れられ、普段からお孫さんたちが、「おじいちゃん、だまされないでね。」と声掛けをすれば、被害が未然に防げるのではないかと思う。

【警察】 先ほど紹介した取組（清水焼協同組合の協力で製作した「特殊詐欺防止」と「交通安全」の文字入り湯飲みの贈呈）は、高齢者本人に贈呈するだけでなく、お孫さんなど家族からも申込みができるようにした。家族から高齢者に渡す際に、被害に遭わないよう注意喚起をし

会 議
内 容

てもらえれば、啓発にもなると考えている。

また、学校では児童に対して防犯教室等を行っているが、高齢者の被害防止の教育も検討していく。

【委員】 1週間ほど前に、私の母のところに詐欺の電話があり、今回で2回目であった。今説明のあった防犯機能付き電話に代えた。詐欺の電話は携帯電話にはかかってこないのか。

【警察】 約8割が固定電話にかかっている。

【委員】 家では、固定電話をなくして、携帯電話に変更しようかという話も出たが、役所等からの電話もかかってこなくなるかもしれないと心配になった。

【警察】 被害防止のためには、携帯電話に代えていただくことが良いと思う。携帯電話であれば、発信者の電話番号が分かり、登録すれば発信者の名前も表示されることから、分かりやすいと思う。

犯人側は何らかの情報を元に、手当たり次第に電話をかけていると思うため、携帯電話への変更は有効であると思う。

【警察】 キャッシュカードをすり替えてだまし取る手口や、オレオレ詐欺の手口は、いわゆる受け子が家に行くため、家が分からないといけなことから、固定電話にかけることになる。何らかの方法で高齢者の氏名が記載された名簿を手に入れ、家も把握した上で電話をかけていると思う。

携帯電話であれば、そのような電話はかかってこないが、還付金詐欺など、ATMに誘導する手口であれば、携帯電話でATMの操作方法を指示することから、電話がかかってくることもある。

【委員】 私の母親のところには、百貨店をかたった電話が3回かかってきたため、交番に届け出た。

【委員】 あるOB会に参加した際、「だまされた」という方がいた。その方は簡単にだまされるような方ではなく、このような手口もよく分かっていたはずだが、それでもだまされたそう。その方は、ある協会に入っているが、そのことに関しても調べられたのか、犯人は、その協会のことに絡めた話をして、焦らしたり不安を煽ってきたそう。

【警察】 焦らしたり、不安を煽るというのも手口である。

また、犯人側は1人ではなく、昔のオレオレ詐欺は、1人で最初から最後まで行っていることもあったが、それでは看破されることから、複数人で電話をかけてくる。1人当たりの電話のやり取りは短いものが多く、例えば、「あなた名義のカードを不正に使用されています。銀行協会に電話してください。」と言われて、その番号に電話をかけると、「カードを止める必要があります。また、警察からも電話があ

会 議
内 容

ると思います。」と言われ、その後すぐに、「〇〇警察ですが。」と電話がかかってくるなど、次から次へと違う人間が、同じ関連の話で電話をかけてくるため、本当のことであると思い、「みんなが言ってるから、多分そうなんだろう。」とだまされてしまう。

【委員】オレオレ詐欺は、まだ多く発生しているのか。

【警察】多く発生している。最近では、大学病院の医者をかたる手口が多く、まず、「息子さんの喉の手術をした。」という話から入り、権威がある人をかたられると、「大学病院の医者が言ってるのだから、本当だろう。」とだまされてしまう。

犯人側は、1度成功すれば同じ手口を何度も行い、どこかで失敗すれば、少し手口を変えろということを繰り返すため、手口はどんどん変わる。

【委員】これだけ警察が注意喚起しているが、結局は、だまされる原因は、「不安と焦り」からということか。

被害者がだまされる原因をわかっていないと、取組をしても効果がないのではないかと思う。

また、「犯人側が何を嫌がるのか」という分析はどうか。

私は、子ども達の力が大きいと思っていることから、小学校期には先ほど話があったように、「おじいさん、おばあさんに被害防止を伝える」という教育を行い、また、中学生、高校生ではその年代の力を活用すべきと思う。

高校生になれば、結構アイデアを持っており、さらにパワーと行動力もあるため、学生を巻き込んだ取組が効果的であると思う。

例えば、高校では総合的な授業があり、高校生とともにイベントを定期的に行ったり、先ほどの話のような企業とタイアップした取組を行ったりすることができるのではないかと思う。

おそらく、今、高校生等の間で流行っているSNS等で広報をしても、高齢者はあまり見ないため、効果はないと思う。何か違う方法での協力を依頼すれば、いろいろと動いてくれるのではないかと思う。

【警察】何にターゲットを絞って、どこに視点を当てて対策を行っていくのかということをはっきりと考えて取り組んでいく。

【委員】そうすることで、イベントなどの活動で話題になれば、犯人側は嫌なのではないかと思う。

【警察】そのとおりだと思う。

【委員】学校やどこかの場所で、子ども達の間で話題になれば、親族が集まった時などにもそのような会話をすることから、それが抑止につながるのではないかと思う。

会 議
内 容

【警察】インターネットに話題として出れば、犯人側もそれを見るところ。被害者側もいろいろな場面で会話をしていただければ、啓発にもなる。

【委員】高校生が警察の方と一緒に高齢者の自宅に行って注意をするというだけでも効果があると思う。

【警察】だまされる原因とは異なるが、だまされやすい人の傾向として、電話が鳴るとすぐに出る人が多い。そして、「自分はだまされない」と思っている人や、真面目で律儀な方がだまされやすいようである。

【委員】検挙に至った事例では、どのようなところから検挙につながったのか。

【警察】検挙したのは、いわゆる「受け子」や「出し子」だが、主に防犯カメラの捜査から検挙している。受け子や出し子は、インターネットなどでアルバイト募集として集めていることが多いため、その上の組織については、本人達も知らない。

なお、「だまされたふり作戦」は、以前は、犯人からの電話の後、1～2時間後に受け子が自宅に取りに行くというように、タイムラグがあったため、その間に警察官が家で張り込みを行い、犯人を捕まえることができた。しかし、今は、電話が立て続けに鳴り、話が続いている最中に受け子が家に来るといった形になるなど、犯人側も工夫しており、そのため、「だまされたふり作戦」による検挙は減少している。

【委員】犯人は、被害者に隙を与えないということですね。

電話の契約者が犯人である可能性が高いと思うが、電話番号から捜査をすることに限界があるのか。

【警察】中には自分名義の携帯電話を使っている者もいるが、それとは別に、携帯電話を集める者がいる。多くは、借金をしている者に対し、「借金をなくしてやる代わりに携帯電話を何台か契約して寄こせ」と言って、携帯電話を集めているが、これも犯罪であり、実際に携帯電話を渡したことにより、検挙された者もいる。

【委員】各地域で防災訓練があるが、警察ではそのような集まりがないように感じる。私は、消防団や自主防災会に入っているが、消防の方は、地域の方とかなり密に連携している。これから年末パトロールなどを行うが、その際に警察の方も一緒に活動したり、防災訓練の際に警察の方も参加して話をすれば、関心を持って聞くとと思う。

防災訓練は地元の皆さんの関心が高く、多くの人が集まると思う。

【警察】あらゆる機会に広報啓発したいと考えている。金融機関では訓練を行っているが、地域の方が集まる行事はなかなか把握できていない。

【警察】先日、夏祭りの際に騎馬隊を要請していたこともあり、体育館に高齢者の方がたくさん集まっていたため、急遽、話をさせてもらった。

会議 内容	<p>地域の行事を把握できれば、積極的に参加したいと思う。地域で行われる行事について、情報を得る方法があれば教えてほしい。</p> <p>【委員】管内には13学区あり、自治連合会では、それぞれ年間行事がある。特に今は、コロナが落ち着き、町内ではこれから新しく歩み出すために活発に行事を行おうとしている時期だと思うため、連携した活動を行うのであれば、今がチャンスだと思う。</p> <p>【警察】いろいろとアイデアをいただくことができた。今後、啓発活動を広げていきたいと思う。</p> <p>4 事務連絡</p> <p>令和4年度第4回山科警察署協議会の開催日程は、会長と調整の上、令和5年2月7日（火）に実施予定とし、後日、連絡する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------	--

第3回京都府山科警察署協議会の開催状況

